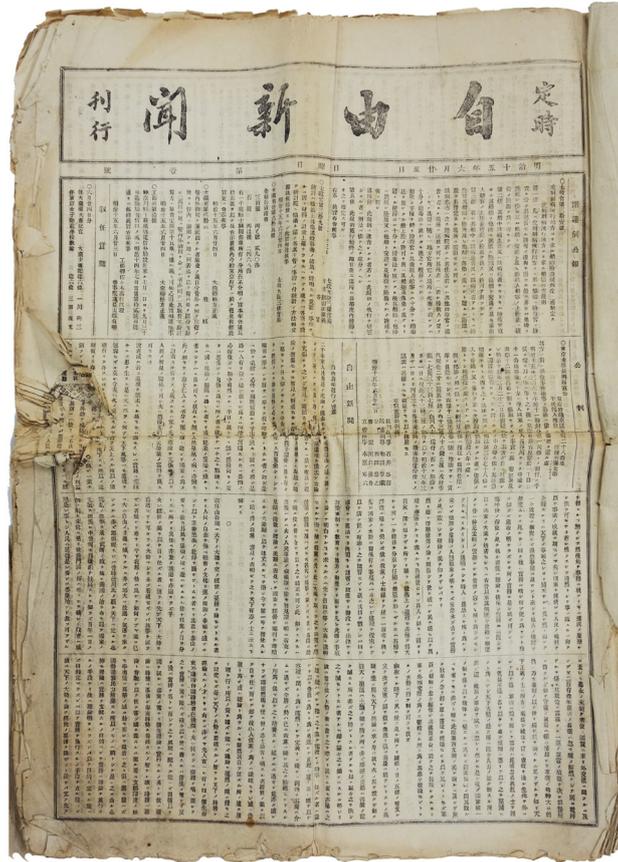


# 福島県史料情報

第66号 令和5年(2023)6月



自由新聞 (庄司家文書Ⅱ 2364)

## 庄司吉之助旧蔵の『自由新聞』

今年(令和五年)は、福島県出身の自由民権運動家・政党政治家として知られる河野広中(一八四九—一九二三)の没後一〇〇年にあたる。そこで当館では、河野が本県における新聞の発行に深く関わったことにちなみ、「報道の時代—近世の風説から近代の新聞へ—」展を開催している。

その展示資料の一つに、河野も参加した自由党が明治十五年(一八八二)六月二十五日に機関紙として創刊した『自由新聞』(庄司家文書Ⅱ二二六四)がある。第一号から第十六号までの二ヶ月分が合綴され、題号などが墨書された手製の表紙が付されている。

この『自由新聞』の創刊を受けて、河野は福島県でも独自に『福島自由新聞』を発行する。両紙は、福島事件や自由党の解党などによって廃刊に追い込まれるものの、この時の経験のちに『福島民報』(明治二十五年創刊)と『福島民友新聞』(同三十二年創刊)の発行へと繋がっていくことを考えると、『自由新聞』が本県のジャーナリズム史に与えた影響は大きい。

加えて、本資料の価値を高めているのが、福島県近代史研究の泰斗である庄司吉之助(一九〇五—一九八五)が所蔵していたという来歴である。『福島自由民権運動史』などの著作を有する庄司が、この資料を自身の研究を進める上での参考資料として用いたことは間違いなろう。近年では、こうした研究者の旧蔵資料を「研究資源アーカイブズ」と位置づけ、活用をはかる動きも進んでいる。二年後に生誕一二〇年・没後四〇年を迎える庄司の顕彰や再評価に向けた手掛かりともなるだろう。

以上の点で、本資料は福島県の近代史研究にとって特別な意味を持つものといえる。

(山田 英明)

明和七年・天保七年に降ったとされる龍の毛

信夫郡瀬上村(現福島市)の内池家に龍の毛に関する史料が伝存している。龍の毛などを一括していた封紙の表書きによれば、同家は龍の毛を二度入手したようである。毛自体は残っていないが、伝存する史料から龍の毛について触れておきたい。

図(右)の封紙(縦二十九cm)表書きによれば、一度目は明和七年(一七七〇)七月四日のことで、龍の毛は飯坂入という地より届けられた。同日は大嵐で大雨・雹が降り、作物に影響は無かったが、藤田(現国見町)・桑折間で龍の毛が沢山降った。伝兵衛なる人物が藤田より拾いに行っており、辺りを拾い集めれば、二、三駄(約二七〇〜四〇〇kg)になるだろうとある。封紙の大きさから二十cm前後の毛と推定される。

図(左)の封紙(縦三十cm)表書きに、一度目は天保七年(二八二六)七月三日朝に拾ったとあり、内池家当主の延年とみられる人物が瀬上で入手した。短いもので一寸(約三cm)



保内池(1558)天降品(内池)年降度(内池)寅申ノ毛式文書(1558)七申ノ毛式文書(1558)明和七年(1770)輝夫家文書

位、長いもので封紙の中の通りとあり、二十cm前後であろう。

封紙と共に、江戸の近況を報じた書付も残されており、六月二十四日(午前十時頃)、江戸で羊の毛のような毛が沢山降ったとある。七月四日に書付を読んだ延年は、前日拾った毛を思い出し、短くて羊のような毛であったと書付に追記した。

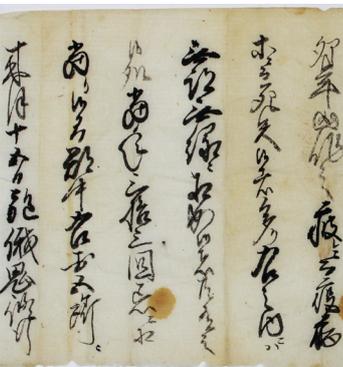
さらに、家蔵の明和七年の龍の毛を見付け観察し、拾った毛を龍の毛と確信して、事の次第を覚書にまとめた。本書によると、この年は雨がちで、六月頃は近所で晴天を願う祈祷が行われ、中旬から晴天が続くも、下旬にまた降り出した。七月朔日・二日は大夕立で、翌朝町内に龍の毛という白い毛が降った。異常なこと、江戸などでも沢山降っており、厄介な年になると記している。二つの事例に共通し、龍の毛は荒れた天気と共に降った。全国的にも毛のような物は稀に降っており、明和七年の目撃例は少ない一方、天保七年は信達地方・全国各地で目撃された。後者は馬の毛のよう、黒毛とも記され、見た目もさまざまで、理解を超えた事態に目撃者は「誠珍敷事」と驚き、凶兆と捉えることもあった。いまだ龍の毛の正体は判然としない。龍の毛を含め、空では不思議なことが起きる。今一度空を眺めて

はいかがだろうか。(小野孝太郎)

会津藩における天明飢饉の死者の供養

今年各地で竹の花の開花が話題となった。稀に咲き一斉に枯れる様子は、現代も凶兆とみる向きがあるが、江戸中期・後期は特にその傾向が強く、凶作・飢饉の前兆と考え恐れられた。天明飢饉と前後して、竹の花が咲いた話が語り継がれていたからである。同飢饉は、発生年の一つである天明三年(一七八三)の干支から「卯の飢饉」と呼ばれた。今年には卯年を迎える節目の年である。節目には仏事供養が営まれてきた。

次の「覚」(長谷部大作家文書八六〇)は、天明飢饉の死者の三十三回忌に関する史料である。文化十二年(二八一五)六月二十三日、会津藩御蔵入役所から南山御蔵入代官の長崎左市右衛門らへの通達によれば、南山御蔵入領(現南会津



覚(部分、長谷部大作家文書(その1)860)

郡及び大沼郡の大半など)では、卯年凶作(天明飢饉)時に疫病などで亡くなった者が多く、後継ぎがなく無縁となる者も多かった。同年は死者の三十三回忌にあたり、七月十五日

に、田島村(現南会津町)・慈恩寺・尾岐窪村(現会津美里町)・龍門寺・古町村(現南会津町)・照国寺・黒谷村(現只見町)・龍泉寺・大谷村(現三島町)・円福寺での施餓鬼修行が命じられた。そのため、各村で無縁の者の戒名・俗名をまとめさせ、右五ヶ寺の最寄寺へ提出することとし、布施料は藩が負担するため、村で布施料を納める必要がないと述べている。その後、六月二十八日に代官所から触継名主へ、七月八日には黒谷組触継名主の新国喜六が只見村・叶津村(現只見町)名主らへ伝達し、村民への周知が図られた。この供養を領民は「難有御施行」と評した。

領主が天明飢饉の死者の弔いに関わったのは、相馬中村藩・三春藩・幕府領など各地でみられた。藩主が供養会を行う例や、供養塔建立費用を負担する例などがあり、本書の例と同様に「百姓之油を取供養致候事珍事也」などと評された。節目の供養は、領民内に生じる災害への不安を和らげる撫民政策であると同時に、領民にとっては、語り継ぎと同様、災害を意識する場となったことは疑うまでもない。(小野孝太郎)

### 井伊直弼の死と手鞠歌

安政七年(一八六〇)三月三日、江戸城桜田門前で彦根藩主・大老の井伊掃部頭直弼が水戸藩脱藩者らに襲撃され、落命した。いわゆる桜田門外の変である。日米修好通商条約の締結や安政の大獄によって独断専行的な幕閣という像が形成されていた井伊の死の情報は、川柳やちよぼくれなどの文学・芸能と結び付き、揶揄を交えつつ全国各地へ伝播していったことは知られる。それらの類似例として、同事件を題材とする子供向けの手鞠歌が作られていた事実を史料中より確認できる。

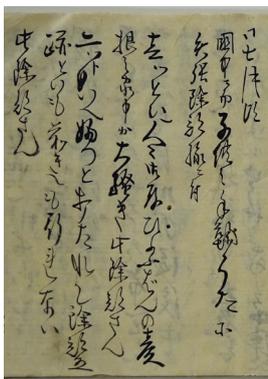
陸奥国白川郡埴村(現埴町)の秦宇三郎が幕末期の風聞を書き留めた「所々風聞控」(秦太一郎家文書(その一)四一八)の文久元年(一八六一)七月条に、手鞠歌の歌詞が記載されている。十番までである本歌では、井伊殺害時の状況が戯画的に描かれる(二・五・七番)ほか、同人の強権政治や賄賂政治を風刺したと捉えることができる一節(四・六番)も見える。加えて、井伊が信頼を寄せていた高松藩主松平頼胤や事件当時の老中脇坂安宅が登場する(三・十番)など、事件当日の様子や井伊の政治姿勢、同人の周辺人物を幅広く織り込んだ歌といえる。

他方、襲撃者や水戸藩については一切歌われていない。前述の川柳やちよぼくれが往々にしてこれらに言及していることを鑑みると、この点は本歌の特徴の一つと指摘できる。

歌詞に注目すると、一例として一番は「老ツといへ、人々御存ひよふはんの、彦根之家中大騒ぎ、此除部さん」である。歌詞冒頭「ひとつ」と中程「ひとびと」が韻を踏む数え歌形式を採っており、ここからも子供を対象とした歌であることが窺えよう。なお、旋律および鞠突き箇所は史料上に記載がない。

以上のように、世上を大いに賑わせた桜田門外の変は、事件から僅か一年後に子供の遊戯にまで影響を及ぼしていたのである。同事件が子供向けの手鞠歌に歌われたことを示す史料は、現時点でこれ以外に見出せていない。しかし、史料執筆者の秦が「手鞠歌に『矢張』井伊が登場した」と記すように、同事件と手鞠歌が結び付くのは、当時を生きた人々にとつてむしろ当然予想しうることだったようである。

(片村 峰雪)



所々風聞控 (秦太一郎家文書 (その1) 418)

### 関寛齋が建立した 甚袈裟の官修墳墓

戦前期の調査によれば、福島県内の官修墳墓は一八六箇所を数え、全国で最も多かった。現在でも県内には多くの官修墳墓が人知れず残されており、これは福島県域が戊辰戦争の主戦場になったからである。

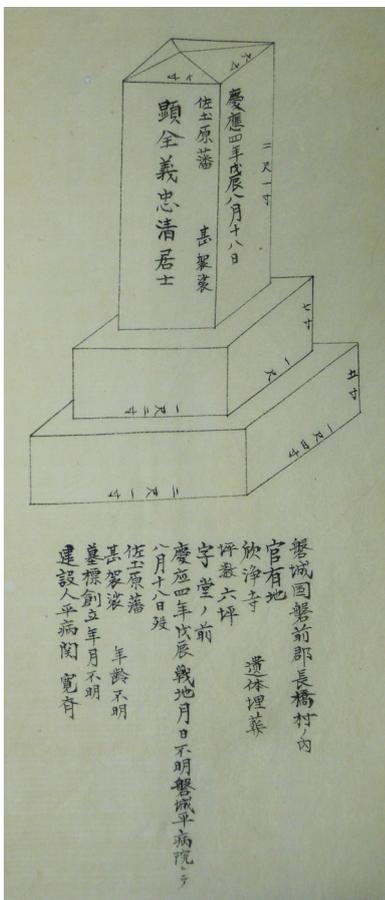
官修墳墓とは、戊辰戦争や西南戦争等で明治政府方として従軍・協力して没した人が葬られた墳墓や墓碑のことで、没した地域に建てられることが多かった。戦前期には政府が墓所ごとに監守人を任命し、手当や墳墓の修繕費を支給していた。

『殉軍者墳墓圖』という福島県の公文書によると、磐城国磐前郡長橋村字堂ノ前(いわき市平)の欣浄寺には、角玉垣を廻らした六坪の墓所に七基の墓碑がかつて存在し、明治十一年(一八七八)十二月三十一日

時点での監守人は同寺住職の浅井義玄であった。葬られた人の所属別では、福岡藩が五基、佐賀藩と佐土原藩(宮崎県宮崎市)が各一基ずつである。佐土原藩夫卒の甚袈裟の墓碑を慶応四年(一八六八)八月二十六日に建立したのが、西軍の奥羽出張病院頭取の関寛齋であった。

佐土原藩は慶応四年七月二十八日に二本松城攻撃の先鋒を命じられ、三春から本宮まで進軍し、翌二十九日には薩摩藩と共に二本松城を攻め落とした。大砲隊付の甚袈裟はこの戦闘により負傷し、八月十日に佐土原藩の新名勘右衛門と共に平の性源寺に設けられた奥羽出張病院へ入院した。怪我の状態は、頭頂の少し左側に三寸程の裂傷が前から後ろにかけてあり、甚袈裟は入院後に意識不明に陥って、八月十八日の朝に他界した。享年は不詳で、亡骸は欣浄寺に埋葬され、戒名は頭全義忠清居士であった。

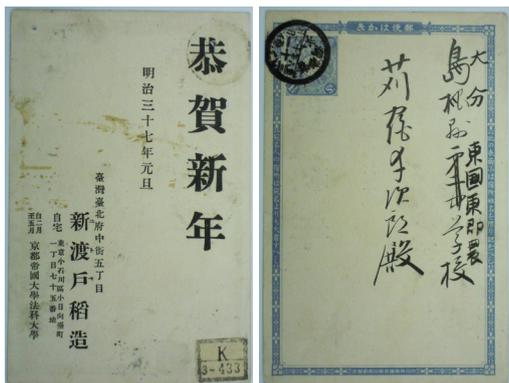
(渡邊 智裕)



佐土原藩甚袈裟の墓碑 (『殉軍者墳墓圖』、福島県神社庁文書 557)

新渡戸稲造の教え子  
であった苅宿幸治郎

明治三十年(一八九七)八月七日、山形県東村山郡山辺町の安達久の三男である幸治郎(幸次郎とも表記)は苅宿仲衛の長女ヨシエと結婚し、幸治郎は自由民権運動家で福島県会議員であった仲衛の養子となった。幸治郎の長兄の安達峰一郎は、外交官で、後に常設国際司法裁判所長となっている。明治五年八月二十九日生まれの幸治郎は二十五歳、ヨシエは二十四歳であった。この縁談は、山形湯殿山神社祠官の高玉篤義の仲介によるものであった。当時の幸治郎は札幌農学校に在学中で、同校教授の新渡戸稲造の教え子であり、農学を修めていたのである。



明治37年元旦付新渡戸稲造葉書  
(苅宿仲衛家文書(その3)433)

この葉書は、新渡戸から幸治郎宛の年賀状である。消印によれば、台湾台北局の明治三十六年十二月三十一日の郵便である。表書きは、「島根縣第二中学校」を「大分縣東國東郡農学校」と訂正してあり、新渡戸の自筆とみられる。新渡戸は、文面で明治三十七年二月から五月まで京都帝国大学法科大学教授を兼ねることを幸治郎へ伝えている。当時の新渡戸は、同じ岩手県出身で台湾総督府民政長官であった後藤新平の招請を受け、明治三十四年に札幌農学校を辞し、台湾総督府の技師となって台湾における製糖業の発展に寄与していたのであった。幸治郎は札幌農学校を無事に卒業すると、大阪府立八尾中学校に赴任し、その後直ぐに島根県立第二中学校へ転任となったとみられる。さらに明治三十六年に大分県東国東郡立実業学校(農学校)へ初代校長として赴任したのである。しかし、幸治郎はこの年の十二月頃から体調が優れず、豊後国速水郡別府朝見病院へ入院し療養をしていた。その容態は回復せず、明治三十七年一月二十九日に三十一歳で他界した。残された葉書等からは、宮沢賢治が盛岡高等農林学校で習った山田玄太郎をはじめとして、全国の農学校で教鞭を執る札幌農学校の同窓生との交流が見て取れる。(渡邊 智裕)

令和五年度行事予定  
(令和五年四月〜令和五年九月)

- 一、展示公開(収蔵資料展)  
「報道の時代―近世の風説から近代の新聞へ―」  
本年に没後百年を迎える河野広中が福島県の新聞誕生に深く関わったことにちなみ、河野の人生と新聞の歴史をたどりつつ、福島県における事件や出来事を振り返ります。  
【会期】開催中〜七月九日(日)  
「空を眺めて―江戸・明治時代の天文・大気現象など―」  
江戸・明治時代の人々が見聞きた日食・彗星・火球・幻日・月虹・オーロラといった天文・大気現象などに関する史料を展示します。  
【会期】七月二十九日(土)〜十一月二十六日(日)
- 【関連講演会】  
八月十七日(木)に国立天文台首席教授渡部潤一氏によるご講演「日本人はいかに宇宙を愛でてきたか(仮)」を開催します(事前申込不要)。詳細は当館HPを御覧下さい。
- 二、地域史研究講習会  
地域の歴史資料の保存と活用について関心を高める機会として、五名の講師により奥会津地域の歴史と文化に関する報告を行います。  
【日時】七月一日(土) 午前十時〜午後三時

**福島県史料情報**  
第66号 令和5年6月25日

編集・発行  
公益財団法人 福島県文化振興財団

福島県歴史資料館  
〒960-8116 福島市春日町5-54  
TEL 024-534-9193 FAX 024-534-9195  
URL <https://www.fcp.or.jp/history/>  
E-mail [history@fcp.or.jp](mailto:history@fcp.or.jp)

初級者を対象に、当館が収蔵する江戸時代の噂話や風聞に関する古文書をテキストとして、古文書の勉強法や解説に役立つ基礎的知識、コツなどを分かりやすく説明します。  
【日時】九月九日(土)、十月一日(日)、十一月四日(土)、十二月三日(日)、各回とも午前十時〜十二時(要事前申込)。  
【会場】とうほう・みんなの文化センター二階会議室

四、資料閲覧について  
閲覧用機材の消毒作業や資料の状態確認のため、前日の午後四時までに電話で予約された方の資料閲覧を最優先とします。詳細や最新の情報はHPでご確認願います。